

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森山 あづさ
非常勤医師	倉田 宝保

—概要—

1997年9月10日新病院開院以降、肺癌をはじめ広く呼吸器疾患全般を専門に診療に当たり、2007年6月1日からは呼吸器科から肺腫瘍内科と診療科名を変更し、肺癌をはじめとする呼吸器(胸腔内)腫瘍疾患を専門に診療を続けてきた。

2016年度は化学療法室専任となり、肺がんに加えて乳がん、胆管がん、膵がんなどの腹腔内腫瘍の化学療法も外来化学療法室で開始した。

2010年4月からは非常勤医師として近畿大学医学部から準教授の倉田宝保医師が勤務していたが、2012年4月からは関西医大枚方病院の呼吸器腫瘍科教授に就任された。引き続き当院の隔週木曜日午前の外来を担当している。

また、2012年4月からは呼吸器内科の外来を近畿大学医学部から東本医師と久米医師、大阪大学医学部からは平田医師が寄付講座から非常勤医師として担当していただいております。今までの腫瘍中心の診療に加えて、肺気腫、呼吸器感染症、アレルギー疾患、間質肺炎等幅広い呼吸器内科診療が行えるようになった。

常勤医師の気管支鏡指導医取得に加え、また近畿大学付属病院呼吸器科からの指導も引き続きしていただけることとなった。呼吸器内視鏡関連施設の維持を継続していく。

今後も人員確保を行うことが診療を継続するうえで重要と思われる。

肺腫瘍内科外来は諸事情により新規患者の受け入れ休止中。

<施設認定、関連施設>

日本呼吸器関連施設

日本呼吸器内視鏡関連施設(気管支鏡)

—来年度への抱負—

胸部2次検診の強化、肺癌検診での地域検診受診率を高め、早期発見につとめていく。

がん進行期および化学療法中の症状緩和中心とした緩和診療に重点を置き、がん拠点病院として地域医療と連携した緩和病棟設立を目標とする。

外来化学療法室での導入を開始し、外来化学療法数を増やしてゆく。